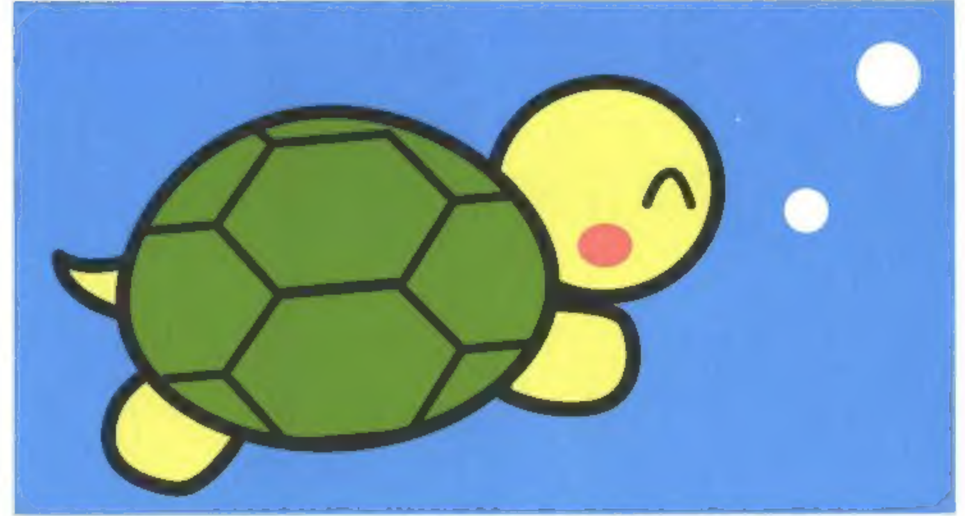
おはなしシリーズ

2

うらしまたろう





うみの　ちかくの　むらに　うらしまたろうという
わかものが　すんでいました。
あるひ　こどもたちが　かめを　いじめていました。
「こらこら　かめを　いじめてはいけないよ。」
うらしまたろうは　かめを　たすけてやりました。

しばらくして　うらしまたろうが　つりを　していると
なみの　あいだから　かめが　かおを　だしました。
「わたしは　あなたに　たすけられた　かめです。
おれいに　りゅうぐうじょうに　ごあんないします。」







かめは　うらしまたろうを　せなかに　のせて
うみの　そこに　もぐっていきました。
「さあ　つきました。」
かめに　つれられて　おしろに　はいっていくと
うつくしい　おひめさまが　でてきました。



「よくぞ　かめを　たすけてくださいました。
おれいに　おもてなしを　させてください。」
めずらしい　りょうりに　さかなたちの　おどり。
それは　それは　たのしい　まいにちでした。



「そろそろ　いえに　かえります。」
うらしまたろうが　おひめさまに　いいました。
「では　おみやげを　もってかえってください。
でも　いえに　かえるまで　あけてはいけませんよ。」
うらしまたろうは　たまてばこを　もらいました。



うらしまたろうは　はまに　かえりましたが
むらの　ようすが　ぜんぜん　ちがいます。
むらの　ひとたちも　しらない　ひとばかり。
うらしまたろうが　りゅうぐうじょうに　いるあいだに
りくでは　なんじゅうねんも　たっていたのです。



こまった　うらしまたろうは　おもわず
たまてばこを　あけてしまいました。
すると　なかから　しろい　けむりが　もくもくもく。
うらしまたろうは　おじいさんに　なってしまいました。